

開催地名：福井県福井市	
開催日時	令和3年2月14日（日） 9：30～11：00
開催場所	福井市防災センター（オンライン開催）
語り部	草 貴子（宮城県仙台市）
参加者	市内自主防災会、連携中枢都市圏構成市町防災関係者 約65名
開催経緯	本市は、終戦直後の震度6を記録した福井地震、九頭竜川堤防決壊をはじめ、平成16年福井豪雨や平成30年豪雪などさまざまな災害を乗り越えてきたまちである。また、令和2年9月4日に福井県嶺北を震源とする震度5弱の地震が発生しており、市民の地震に対する備えや自主防災組織を中心とした地域の防災力を向上させる必要があるため、語り部講演会を開催する。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>東日本大震災だけでなく、あらゆる災害をもたらす悲しみや苦しみ、辛さは、できれば経験したくない。ここに住んでいて、大きな災害は来ないだろうと言っている、いつ、どこで災害が発生するかは誰もわからない。もし被災しても、自分が得た知識や知恵を冷静に発揮し、周囲に展開して役立てていただくことができれば、「防災」や「減災」への一助になるものと信じている。</p> <p>（2）市名坂東町内会の紹介</p> <p>私の住む仙台市泉区は、人口21万5千人の政令都市仙台の副都心、ベッドタウンである。泉区は内陸部であるため、東日本大震災においては津波の被害はなかった。市名坂東町内会はその泉区の東部に平成20年に設立した、現在加入数181世帯の町内会である。働き盛りの40～50代の方、または単身赴任の家庭が多い中で、必然的に私達女性が立ち上がり作り上げた町内会で、役員9名全員が女性であることも、設立2年目に建設した集会所の為に銀行にローンを組んだのも仙台市では初めてのことである。町内会の3つのスローガンを、地域住民相互の連帯・協調・主体性、防災活動、子育て支援とふるさとづくりと掲げた。防災に力を注ぎ、併せて、身の丈にあった町内会であること、オリジナリティーのある町内会であることを目指し、活動を行っている。女性が町内会を運営するにあたっては、家庭を第一として考えてもらうことにしており、塾の送迎、子供の体調、家事全般等々、あらゆることが主婦にはのしかかっている現実を踏まえ、あくまでもボランティアであることを認識してもらい、できることを無理なく行うこととしているのが特徴である。</p> <p>（3）東日本大震災</p> <p>地震発生後ほどなくして集会所を開けると、100名ほどが避難してきた。避難者の大半は町内会に未加入のマンションの住民だったが、会員も会員外も関係</p>

なく皆さんを受け入れた。私どもの地域では幸いにして、電気は2～3日、水道は3～4日、ガスは1カ月で復旧したため、各自が持ち寄った材料で卓上コンロを使って子供達が調理するなど、ほのぼのとした時間も取ることができた。翌日から、折りたたみリヤカーで指定避難場所へ支援物資の引き取りに行ったが、支援を受けたのは12日と13日の2日間だけで、その後は各家庭で対処してもらい、避難所自体も20日に閉所した。

(4) 震災後の取り組み

町内会には若い家族が多く、親戚もないケースが多い。夫が会社に出勤している間に災害に見舞われた今回のようなケースを想定し、その年の11月から未就学児を持つ若い母子を対象に、子育て支援を週1回、集会所を開放してスタートした。様々な活動の中で、会員同士の交流だけでなく、防災について考えていただくプログラムも実施するよう心掛けています。例えば、震災時に商店やガソリンスタンド、病院などの位置がよく分からなかったということから、防災便利マップを作成したり、消防署にお願いして意見交換という形をとり、子どもを抱え、市のフォーラムに参加できない母子に対する講話を企画したりしている。お母さん同士で知恵を出し合って、完璧な答えがでなくても、その過程を大切にしていって、このような活動を少しでも前に進めていきたいと考えています。

東日本大震災だけでなく、あらゆる災害がもたらす悲しみや苦しみ、つらさに、自分だけでなく、家族や知人が巻き込まれたりしたらと考えていただき、そのような事態にならないよう、防災・減災に対する心構えを大きく保っていく、是非そのような観点で災害に対して考え、準備する気持ちを持っていただきたいと切に望んでいる。



開催地より

地域での取組事例はとても参考になるものも多く、女性が積極的に防災活動に参加していくことは、今後絶対に必要なことだと改めて認識することができた。市内自主防災組織の組織・活動体制の強化につなげていきたい。